

巻頭特集 座談会

新旧役員挨拶

第79期 決算報告

TBSサービス社内セミナー

社員寄稿

野球クラブ活動報告

表彰

# 3年生4人を 社長室に 呼び出して みた。



# BIG BOSSと 3年目の飛躍を図る正念場の

# 4人

～もうROOKIESでは  
いられない!!～

「仕事に慣れてきたぐらいの若手と、いろんな話をする機会があったら面白いかもね…」そんな児玉社長の声をキャッチして社報委員会が今回企画したのは、社長と入社3年目の同期4人組による座談会。各方面に散らばる彼らの『今』、そして『これから』を聞いてみました!

## これからが本当の スタート

— まず児玉社長に、3年目に望む社員像を伺いたいと思います。

**児玉社長:** 丸2年勤めたということで、それぞれの職場で自分のすることに自信を持てる頃だと思います。ここからは給料に見合う仕事してもらわなきゃいけない訳ですね。慣れてきたことによってルーズになってしまう危険性はあるけれど、一方で違う視点で各方面に目を向けることができる頃でもあると思います。

これからが本当の意味での社会人としてのスタートだと思うので、どんなスキルを身につけて行って欲しいし、いつも新鮮な気持ちで働いて貰いたいですね。

— 今のお話を踏まえ、皆さん、ご自身の『出来上がり具合』はどうでしょうか?

**KR:** まだ勉強している最中なので、出来ていないことばかりで…

**児玉社長:** あなたは外の人ともお付き合いがあり、きちんと会話や挨拶ができる。それだけでも学生時代より進歩しているよね。

**KR:** 二回りも三回りも年上の方たちともお話できるようになった点は成長できているのかな、と思います。

ただ、発想やイメージはあっても手段やツテがなかったり目先の作業に追われたりで具現化できない点が、まだまだです。

**HM:** 私は3階の技術のフロアで仕事していますが、放送の仕組みが入社当時に比べてずいぶん分かるようになったかなと思います。まだ分か

らないことはたくさんあるのでデスクに教えて頂いたりもしていますが…。

あと今新入社員の指導係をしていて、いろいろ説明する中で新しく疑問が生まれたら、その都度確認して解決するようにしています。仕組みやデータの理解がだんだん深まりつつあるところでもあり、まだまだなところでもありますね。

**児玉社長:** 今、番組担当をしているんだよね。何卒ぐらい持っているの?

**HM:** 今は7つぐらい、土日中心に担当しています。いつもデータを思い出して、急に不安になったり、特にお休みの日に自分の担当番組があると何回チェックしても不安です。日々緊張してます。

**児玉社長:** 放送事故を出したことはある?



番組本部  
TBS 番組部 海外課  
T.S



映像本部  
コンテンツ企画部  
T.Y



事業本部  
印刷事業部 営業部  
K.R



放送業務本部  
放送技術事業部 放送部  
H.M

**HM:** 一度あります。その時はすごく落ち込みましたが、それ以来気をつけるようになりました。本来なら絶対あってはならないことですが、自分に厳しくありたいと思うきっかけになりました。

——他の方は如何ですか？

**TS:** 私は海外番販に配属されて最初の1年はいろいろなところに連れて行って頂いたり様々なジャンルの番組に接したり、勉強の機会を作っていました。2年目の4月からは、中国と韓国を除く東南アジアへのドラマ販売と全世界の日本語放送への販売を担当しています。去年は担当を持ったばかりで右も左も判らない状態でしたが、上司の指導のもと1年を終えることができました。今は自分がこれからしなくてはいけないことがようやく見えてきたかな、という状態です。

**IY:** コンテンツ企画部で丸2年仕事をさせて頂きました。最初の1年は業務の最低限のルールや仕組みを学び、今は『IRIS』というドラマのアシスタントをさせて頂いています。そこでは皆さんクオリティの高いものを目指してらっしゃるので、日々の業務に追われてばかりの自分も向上心を掻き立てられます。まだまだ力不足で、自分の企画であっても上の方にサポートして頂いているのが現状です。

## 頼まれた仕事は 快く受けよう

——社長ご自身はどんな3年目社員でしたか？

**児玉社長:** 1968年、君らの生まれるずっと前のことです。僕は営業志望で入社して、営業局のCM部に配属されました。一日中試写室で順番通りCMが入っているかどうかをプレ

ビューするのが辛くてね。さっきの話ではないけれど、慣れてくると事故を出すんだ。繋ぎ違えたりね。随分怒られたもんです。ただ今と違うのはテレビがいい時代だったところ。競争も少なかったしテレビ業界が上り調子で、TBS自体とても元気があった。

——その頃経験されたことで今も生きていることは。

**児玉社長:** 当時の僕はCM部から出たくて、でも出られなくて、という状態で、それでふてくされてヒゲを伸ばしてしまった。そうしたらある先輩に「そんなことで怒っていたらやっつけられないよ。これからもっと大変なことがあるんだから、さっぱりヒゲそって出直してこい。我慢することはサラリーマンにとって一番大事なことだぞ」って言われたことがあったな。

他には、当時まだフィルム中心の時代でしたが、VTR CMが出だした頃でこのVTR CMの差し替えがとても面倒だったのだけれど、スポンサーの指示で差し替えることも多くてね。それで技術に持ち込んで再編集をお願いする訳です。すると、結局最終的にはどの人も作業してくれるんだけど、いつも怒られるんだ。でもそんな中で唯一快く受けくれる技術のデスクの方が一人いて、その方には今でも恩義を感じています。

その時学んだのは、どうせ頼まれ仕事をするなら、気持ちよくやったほうがいいということ。そのほうが相手だって気持ちよく働けるし、いつか別の形で助けて貰うこともある。

**TS:** 海外のお客様と接していると、



日本人だったら絶対言わない無理な要求を平気で言ってくる方もいらっしゃいます。けれど私は作品を売る立場であり、同時に制作者の方々が一生涯懸命作った作品を守らねばならない立場でもある訳で…。板挟みになって苦しい思いをした時、上司や先輩方が具体的な策を下さったお蔭で、どうにか打開することができました。今後も大切な作品を売っているという自覚を忘れずにいたいと思っています。

**KR:** 僕も常日頃から、お客さんや協力会社の立場を考えながら仕事をするように心がけてはいますが、どうしてもどちらかに偏ってしまったり、上手に調整できなかつたり。それが辛いです。

**児玉社長:** そういうことが一回限りだとそれつきりになってしまう。けれど付き合いってずっと続く訳だし、その都度「あの時はごめん」とか「今度はこうするね」とか伝えることでよりお付き合いが深くなっていく。僕も若い頃はとても気が短かったのですが、すぐカッと来て言葉が過ぎることも多かつたけれど、自分に非があったと思えばすぐ謝り後に持ち越さないから、喧嘩したほうが仲良くなったりするんだよね。現に本気でぶつかり合った人とは長い付き合いができていますよ。

本音を言うことと、相手の立場に立つこと。この二つは、とても大事。

**IY:** 先ほどのCM部時代の社長の

話にすごく共感しました。私も多くの方々に急なお願いをしてしまっている。そういう時に「やるよ」とか「間に合わせるよ」と言って下さる方は本当に心強い存在です。この先自分も頼まれ事をしたらそう思って貰えるような対応を心がけたいと思います。

**HM:** ダイレクトに物事を言うよりも「申し訳ないんですがお願いします」と言葉のクッションを置いたほうが皆さん聞き入れて下さるような気がします。言い回して本当に大事ですね。

## 児玉社長が買ったものとは?!

—— 社会人になって買ったものの中で、一番高いものは何ですか?

**TS:** 私は月に一回ネイルサロンに行くことを自分へのご褒美にしています。

**IY:** 私はテレビとブルーレイを買いました。会議で「ブルーレイ持っていない人!」って聞かれてしまうので、そんな時に「持ってます」と言えるように…。

**一同:** すごい!

**児玉社長:** 偉いね! 仕事だもんね!

**HM:** 私は旅行にお金を使いました。去年はパリに行きました。

**KR:** 僕はギターのエフェクターを6個ぐらい一気にオトナ買いました。

—— ちなみに社長は何か買われましたか?

**児玉社長:** 3年目の秋に結婚したから、婚約指輪かなあ。

(ええ〜っ!? 一同犬騒ぎ)

## 何もしなきゃ何も生まれない

—— 続きましてこれからの話、未来

の話を知りたいと思います。

**TS:** 私はもう少し海外販販で頑張りたいです。国内ではドラマ離れでなかなか視聴率が取れない状況が続いていますが、国内で人気が出なかったものが海外でもそうとは限らないし、お客様のニーズにあった作品を提供していきたいです。去年は担当を持ったばかりでがむしゃらにやっていたので、今日の社長のお話にもありましたが、相手の立場に立って考えられる営業職になりたいですね。

**HM:** 私は今新人の指導をしているので、彼女を1年ぐらいかけて一人前にしてあげたいと思っています。

私だけではなく、いろいろな人と関わる中で成長して行って欲しいです。そしてその過程で、自分も一緒に成長していきたいです。

**KR:** TBSさんに対しては、提案のきめ細かさに磨きをかけることで貢献していきたいと思っています。また外のお客様には、TBSグループならではのオプション、例えば去年はウルトラマンフェスティバルのチケットを差し上げてとても喜んで頂いたことがありましたが、そういう利点を上手く生かしていきたいと考えています。

**IY:** 私は今の仕事がとても刺激的で毎日ショックを受けたり悩んだりという状態なので、悔いが残らないように取り組んでいけたらと思っています。まだどうしても人に頼ってしまうことも多いので、早く独り立ちをしなくてはとも考えています。

—— 社長は若手のお話に関して、どのような感想を?

**児玉社長:** 同じ頃の僕みたいに出たくて出たくてしょうがないっていう状態じゃないようで、安心しました。今は仕事をしていてまだ少し目指すも

のに届かないっていう感じかな。まずは目先の仕事を頑張ってやっていけば、後は人事が考えるでしょう。みんなが元気に働いているようで、よかった。

僕は将来的にTBSサービスが技術と幅広いエンタテインメントの会社になったら、と考えています。今テレビがこんな時代になって、外部から仕事を頂くということが本当に大事なことなのはお判り頂けると思う。だから何かしなきゃいけないと思って、僕は当社に来てから三つほど新しい仕事を始めました。それが出版、物販、投資です。全部がうまくいくなんて思っはいませんが、ひとつでもふたつでもサービスの力になるものになってくれればと考えています。幸い展覧会の物販は順調です。出版は、これだけ素材があってメディアがあって、よそに比べたらはるかに恵まれた環境にある訳だから、多少難しくてもそう易々と諦めたくはない。投資に関しては、現在ブロードウェイのミュージカルを対象に行っています。TBSの事業は本場の作品を日本で興行する、当社はその元の作品に投資する、という棲み分けでビジネス展開をしていて、今のところ順調です。この春2つスタートしたんですが、『Million Dollar Quartet』はトニー賞で助演男優賞、『Promises, Promises』は助演女優賞を取ったので、かなり期待できるんじゃないかな。この他サッカー検定事業など新規ビジネスもいろいろと検討しているところです。当社は多種多様な人材がいるから、こういうエンタテインメントの分野に幅広く展開していきたい。そのうちのどれかが飯の種になってくれればと思っています。常々僕が言っているのは「何

もしなきゃ何も生まれません」ということ。もちろんTBSから頂いた仕事をきちっとやるのが一番大事なのは事実です。けれどそれだけでは済まない。アクションする重要性を判って欲しい。そしてサービスオリジナルのビジネスを作っていけたらと思います。

— 今伺った当社のこれからのビジネスモデルに関して、みなさんはどう思われましたか？

**KR:** 印刷に関して言うと、紙媒体というのは数が減っていく一方でオンラインデマンドの出力デバイスについての話を職場でもよくしていますが、従来からのお付き合いを崩さない、大切に組み込んでいく、ということも忘れてはいけない大前提だと思います。

**IY:** 私は今、海外の作品を放送からDVDにしていくという新しいビジネスに接していますが、モデルケースがない事案の場合、すべて一から決めていかなければならないので、その度に立ち止まって考えて悩んで、の繰り返しです。けれど初めてだからこそ出来ることもたくさんあるとも思いま

す。私自身も、従来の仕事に留まることなく、新しいことにチャレンジしていきたいです。

**TS:** 社長の海外への投資の話を特に興味深く伺いました。海外は制約も多いけれど日本の常識に囚われない分、可能性はたくさんあると思います。あと個人的にミュージカルが好きなので、是非どんどん投資して頂いて、何かお手伝いできることがあればさせて頂きたいです。

## 社長になったつもりで言ってごらん

— TBSサービスをこんな会社にしたかった！といった抱負もお聞かせください。

**児玉社長:** みんな、社長になったつもりで言ってごらんよ。

**KR:** 一言で言うと、「今後も必要とされる会社」で居続けたいと思います。

**IY:** 生産性のある、考えたことを形にできるような会社になったらいいなと考えています。

**HM:** TBSのサポートをする部署に

おりますので、日々の業務の中で信頼性を勝ち取り、信頼される会社で居続けることができたらいいと思います。

**TS:** 取り巻く環境が刻々と変化していく中でも柔軟性を持って対応していける会社であつたらいいなと考えています。

— では同じ質問を社長にも。

**児玉社長:** まずはTBSにとってなくてはならない会社であり続けること。それはすなわちTBSに評価される能力を維持していく必要があるってことだね。これはとても大切なことです。ただそれだけで終わってはいけません。独自の企業文化を持った会社でなくてはなりません。TBSから必要とされつつも、TBSサービスとして自立した企業であること。これを実現したいと考えています。

このあともいるんなヒケツや体験談をたっぷり仕入れ、さらにおいしいコーヒーとスイーツをお腹に収めた4人は、当初の緊張気味の表情とは打って変わって意気揚々と各職場に戻って行きました。児玉社長、彼らの後姿に当社のハッピーな未来が少し見えてきましたか？それとも？

